二次対応（避難誘導後） 校内

情報収集

テレビ、ラジオ、電話携帯、メール、インターネット、防災メール、防災無線等

二次対応判断

①水害

安全な場所への避難
体育館
近くの高台

②火災
ガス管の破裂

安全な場所への避難
二次避難場所
グラウンド
近寄らない、現場から離れる

③建物の倒壊

安全な場所への避難
二次避難場所
グラウンド
近寄らない、現場から離れる

④土砂災害

安全な場所への避難
グラウンド
（体育館）

⑤液状化

安全な場所への避難
二次避難場所
体育館
近寄らない、現場から離れる

⑥地盤（沈下等）

安全な場所への避難
二次避難場所
体育館
近寄らない、現場から離れる

⑦原子力災害）

対策本部と綿密な連絡をとり、情報収集を行う。

戸や窓を閉めるなど、外気を遮断する。

安全確認

避難場所・経路の安全確認をする。

人員確認

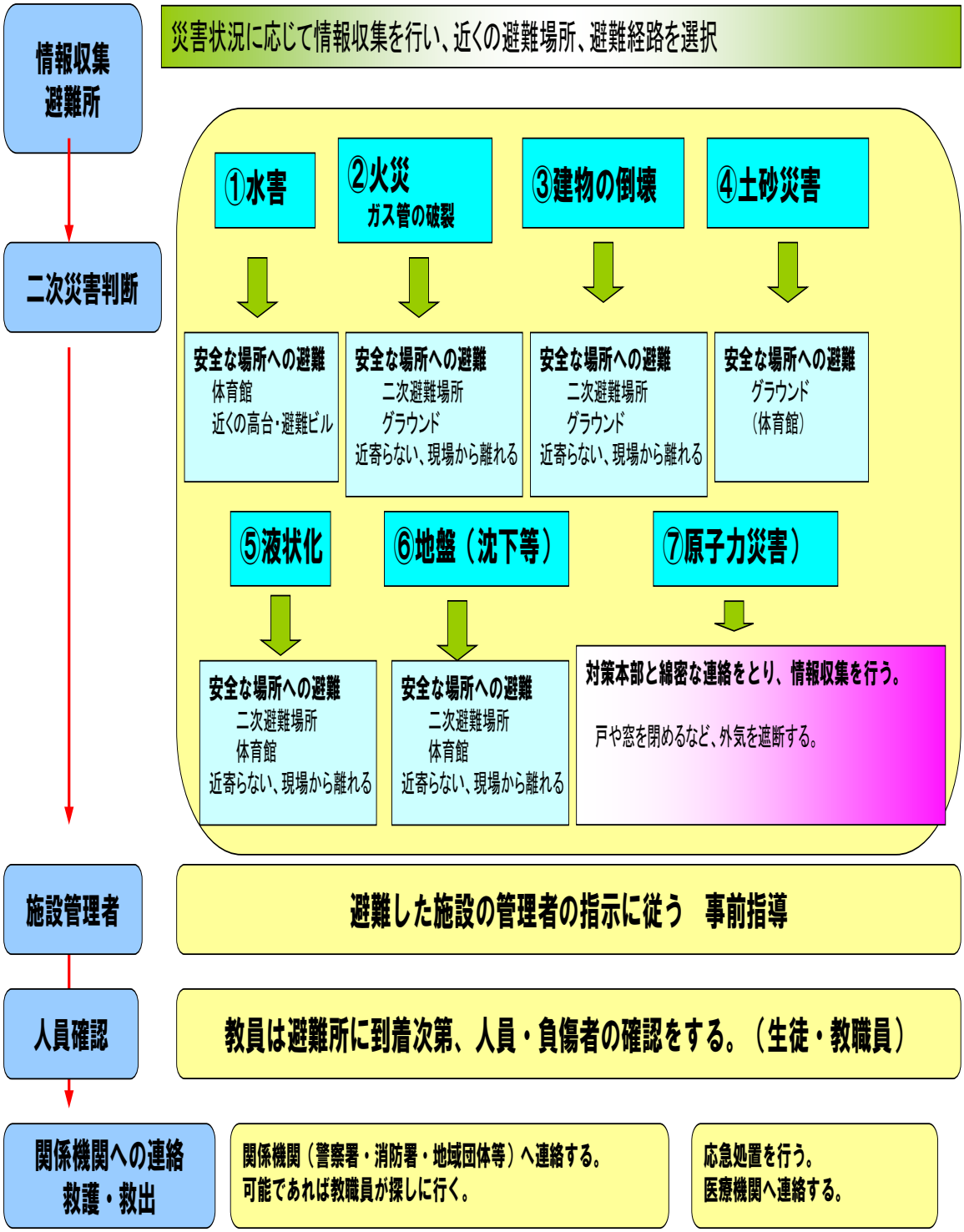
人員・負傷者の確認をする。（生徒・教職員）

関係機関への連絡
救護・救出

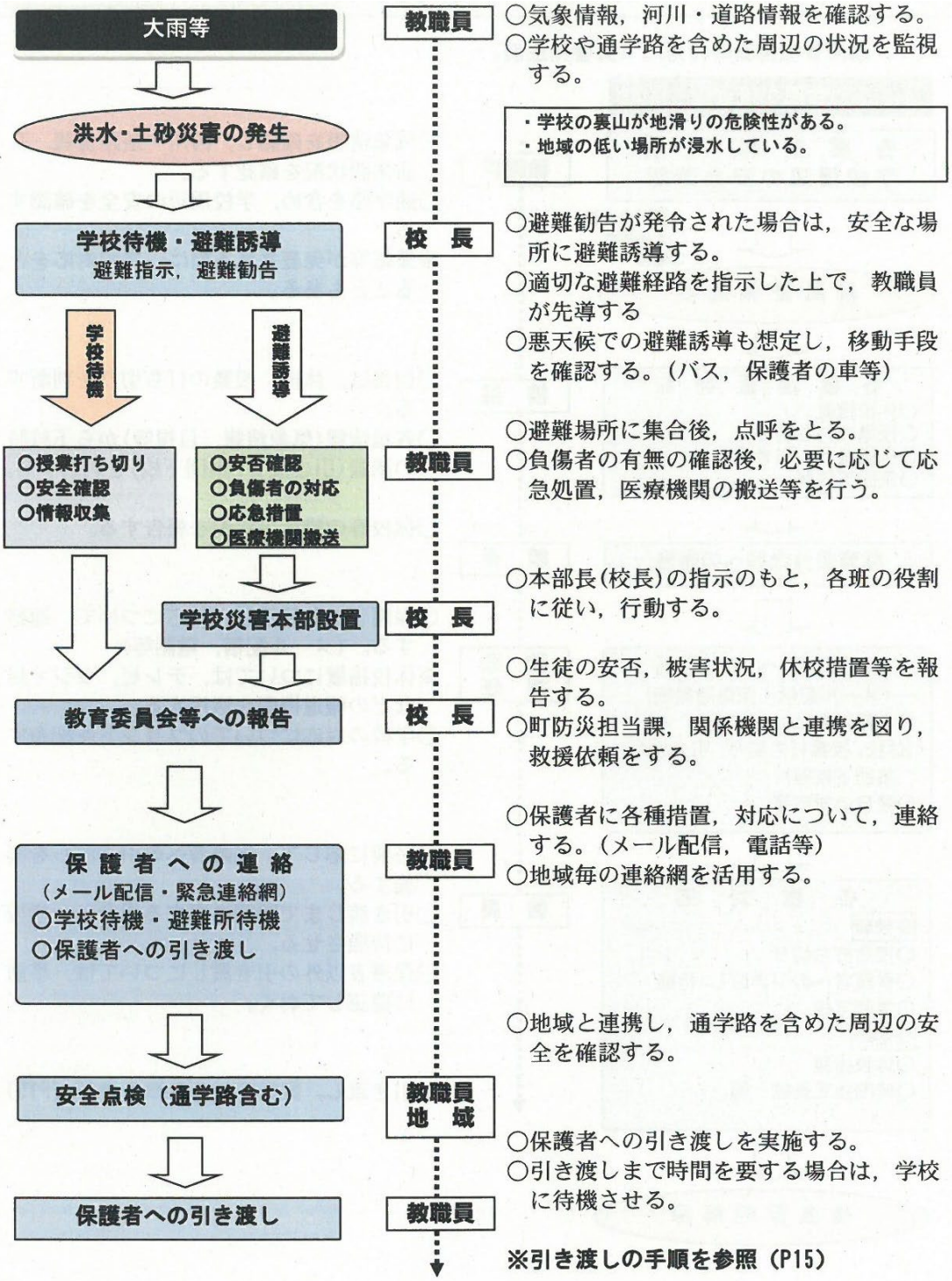
関係機関（警察署・消防署・地域団体等）へ連絡する。
可能であれば教職員が探しに行く。

応急処置を行う。
医療機関へ連絡する。

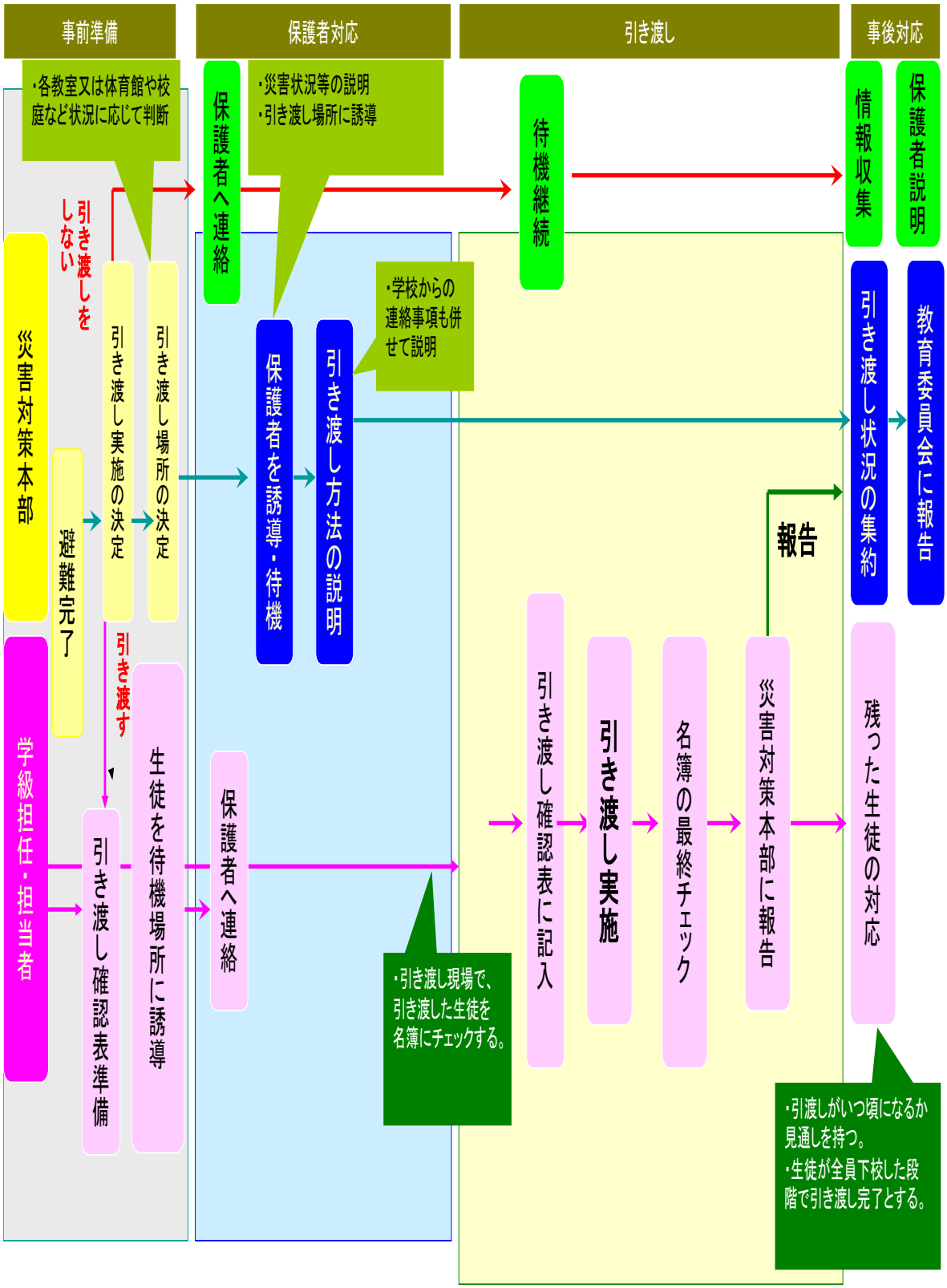
二次対応（避難誘導後）校外



土砂災害発生時の対応


大雨等
洪水・土砂災害の発生
学校待機・避難誘導
避難指示，避難勧告
学校待機
避難誘導
○授業打ち切り
○安全確認
○情報収集
○安否確認
○負傷者の対応
○応急措置
○医療機関搬送
学校災害本部設置
教育委員会等への報告
保護者への連絡
（メール配信・緊急連絡網）
○学校待機・避難所待機
○保護者への引き渡し
安全点検（通学路含む）
保護者への引き渡し
教職員
○気象情報，河川・道路情報を確認する。
○学校や通学路を含めた周辺の状況を監視する。
・学校の裏山が地滑りの危険性がある。
・地域の低い場所が浸水している。
校　長
○避難勧告が発令された場合は，安全な場所に避難誘導する。
○適切な避難経路を指示した上で，教職員が先導する
○悪天候での避難誘導も想定し，移動手段を確認する。（バス，保護者の車等）
教職員
○避難場所に集合後，点呼をとる。
○負傷者の有無の確認後，必要に応じて応急処置，医療機関の搬送等を行う。
校　長
○本部長(校長)の指示のもと，各班の役割に従い，行動する。
校　長
○生徒の安否，被害状況，休校措置等を報告する。
○町防災担当課，関係機関と連携を図り，救援依頼をする。
教職員
○保護者に各種措置，対応について，連絡する。（メール配信，電話等）
○地域毎の連絡網を活用する。
教職員
地　域
○地域と連携し，通学路を含めた周辺の安全を確認する。
教職員
○保護者への引き渡しを実施する。
○引き渡しまで時間を要する場合は，学校に待機させる。
※引き渡しの手順を参照（P15）

■校内における引き渡しの手順



令和５年４月 11 日

保護者　様

内子町立内子中学校長　西本　　晃

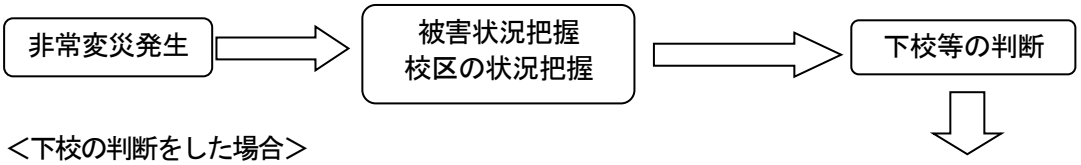
重 要　非常変災時の保護者への引き渡しについて

非常変災等が発生した場合の対応について、非常変災時の保護者への引き渡しを確実に行うため、別紙「引き渡しカード」に必要事項をご記入の上、学級担任へご提出ください。重要な資料となりますので、よくご検討の上ご記入ください。なお、「引き渡しカード」は、学校で保管し、写しをお返しします。２・３年生につきましては、前年度分をお返ししますので、変更があれば訂正してご提出ください。変更がない場合はそのままご提出ください。

あわせて、保護者の方で非常変災時の対応について、気になることがありましたら、学校までお知らせください。臨機応変に対応いたします。

＜生徒の保護者への引き渡しについて＞

学校に居る場合に、地震等の非常変災が発生し、生徒の帰宅が困難な場合は、中学校で保護し、家庭に連絡後、家庭からの迎えにより引き渡すことを原則とします。



＜下校の判断をした場合＞

震度５弱以上の地震 ※ 学校での引き渡しとなります。	震度４以下の地震 他の警報・注意報
・基本的に学校に待機・保護する。 ・保護者へ連絡（ﾒｰﾙ配信、電話連絡、災害伝言ダイヤル171）する。 ・連絡が取れない場合は、家族等に引き渡すまで学校待機・保護とする。	・そのレベルに応じて、被害状況及び校区の状況把握を教職員が行い、安全確認後に下校させる。なお、学校判断により、学校での引き渡しで対応する場合もあり得る。

引き渡し方法

１　生徒は余震・二次災害等を考慮し、原則として、中学校運動場中央付近に待機させています。（体育館や教室の可能性もあります。また、うちこ福祉館等に移動している場合もあります。）

２　保護者や家族は、原則として徒歩（自転車）で中学校に来てください。交通状況に支障がなければ、自家用車でも結構ですが、臨機応変にお願いします。

３　生徒の引き渡しは、本校教職員が「引き渡しカード」に基づいて行い、「確認表」に記録し引き渡すようにします。万全を期すため、時間がかかる場合もありますがご了承ください。

＜生徒引き渡しカード記入方法＞

１　学年・学級・出席番号は、それぞれの生徒の該当学年の欄にご記入ください。

２　緊急時の連絡先は、自宅以外で、保護者に連絡ができる場所や施設名と電話番号をご記入ください。

３　引き取り者氏名は、緊急時に学校へ生徒を引き取りに来ていただける可能性の高い順に第１、第２、第３まで、ご記入ください。

４　避難場所は、緊急時に避難することになるだろうと予想される内子中学校以外の場所をご記入ください。家族で決めている緊急時の避難場所等でもかまいません。

５　生徒引き渡しカードは、３年間使用します。ただし、毎年年度当初に見直しをしていただきます。

震度	人の体感・行動	屋内・屋外の状況	
０	人は揺れを感じないが、	特に大	＜参考＞

	地震計に記録される。	きな変化なし	マグニチュードとは地震そのものの大きさ（規模）。震度とは、生活している場所での揺れの強さ。マグニチュードが小さくても生活場所に近い発生の場合は、大きな震度となる。
1	屋内で静かにしている人の中には揺れをわずかに感じる人がいる。		
2	屋内で静かにしている人の大半が揺れを感じる。中には目を覚ます人もいる。	電灯などのつり下げ物が、わずかに揺れる。	
3	屋内にいる人のほとんどが揺れを感じる。歩いている人の中にも揺れを感じる人もいる。眠っている人の大半が目を覚ます。	棚にある食器類が音を立てることがある。 電線が少し揺れる。	
4	ほとんどの人が驚く。歩いている人のほとんどが揺れを感じる。眠っている人のほとんどが目を覚ます。 ※芸予地震　震度４（内子町）	電灯などのつり下げ物は大きく揺れ、棚にある食器類は音を立てる。座りの悪い置物が倒れることがある。 電線が大きく揺れる。自動車を運転していて、揺れに気付く人がいる。	
5弱	大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。	電灯などのつり下げ物は激しく揺れ、棚にある食器類や書籍の本が落ちる。座りの悪い置物の大半が倒れる。固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。 まれに窓ガラスが割れて落ちることがある。電柱が揺れ、道路に被害が生じることがある。	
5強	大半の人が、物につかまらないと歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。	棚にある食器類や書籍の本で落ちるものが多くなる。テレビが台から落ちることがある。固定していない家具が倒れることがある。 窓ガラスが割れて落ちることがある。補強されていないブロック塀が崩れることがある。据付けが不十分な自動販売機が倒れることがある。自動車の運転が困難となり、停止する車もある。	
6弱	立っていることが困難になる。	固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。	
6強	立っていることができず、はわないと動くことができない。揺れにほんろうされ、動くこともできず、飛ばされることもある。 ※阪神・淡路大震災(1995) 東日本大震災(2011) 熊本地震(2016)	固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物が多くなる。補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる。	
7		固定していない家具のほとんどが移動したり、倒れたりし、飛ぶこともある。 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物がさらに多くなる。補強されているブロック塀も破損するものがある。	

【生徒引き渡しカード】

保護者記入欄	生徒氏名		性別		血液型	型　RH（　　）			
	学年・学級・出席番号	1年　　組　　番	2年　　組　　番			3年　　組　　番			
	住　　所								
	保護者名		生徒との関係		電話				
	兄弟姉妹	（ 有 ・ 無 ）	年　組　番		氏名		性別		
			年　組　番		氏名		性別		
	緊急時の連絡先	（住所） （施設名等） 電話（　　）							
	引き取り者氏名	（第1）				本人との関係			
		（第2）				本人との関係			
		（第3）				本人との関係			
	避難場所（連絡先）	第1（住所） （施設名等） 電話（　　）							
		第2（住所） （施設名等） 電話（　　）							
学校記入欄	※引き渡し日時	月　　日　　時　　分			※引き渡し教職員名				
	※引き取り者名		※避難場所		自宅　・　その他（　　）				
	※特記事項								

※印の所は、記入しないでご提出ください。